

繰越（翌債）を必要とする理由書

様式C-26
作成・確認のポイント

機関番号： 12345 研究機関名： ××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円（内訳：直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円）
 繰越（翌債）承認要求額： 2,600,000 円（内訳：直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円）
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費（H26）： 円（内訳：直接経費 円・間接経費 円）】

研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H26.4 事前準備	H26.4 事前準備	※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年8月までに、 △△評価実験及び▲▲解析を行い、 平成27年3月までに、 解析結果に基づき、■■を開発、評価の上、成果を取りまとめる 予定であった。
H26.5 ↓	H26.5 ↓	
H26.6 △△評価実験	H26.6 △△評価実験	
H26.7 ↓	H26.7 ↓	
H26.8 ▲▲解析	H26.8 ▲▲解析	
H26.9 ■■の開発	H26.9 △△評価実験の追加実施	
H26.10 ↓	H26.10 ↓	
H26.11	H26.11 ▲▲解析（追加実施分）	
H26.12 ↓	H26.12 再実験結果の評価	
H27.1 ↓	H27.1 ■■の開発	
H27.2 ■■の評価	H27.2 ↓	
H27.3 研究成果とりまとめ	H27.3 ↓	
	H27.4 ↓	事由 記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難 (補足説明) 平成26年9月、△△評価実験、及び▲▲解析の結果、□□条件に予期しなかったばらつきが見られたため、予定よりもより多くの試料について、詳細な評価を実施する必要が生じた。
	H27.5 ↓	
	H27.6 ■■の評価	
	H27.7 研究成果とりまとめ	
	H27.8 ↓	
	H27.9 ↓	
	H27.10 ↓	
	H27.11 ↓	
	H27.12 ↓	
	H28.1 ↓	
	H28.2 ↓	
	H28.3 ↓	
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年9月	平成27年7月末（4ヶ月延長）	

左の<当初計画>に記入した内容・時期を記入。

翌年度計画と繰越承認要求額に大きな乖離はないか確認。

間接経費は、原則、直接経費の30%相当額ですが、全額執行済みや執行予定が決まっている場合は、30%相当額未満でも構いません。（※ 研究機関の事務担当者に確認してください。）

<記入上の留意事項>
 ○ファイルの書式(行数、列数、幅等)、ファイルの形式は一切変更しないでください。
 ○フォントは「MS明朝」を使用してください。
 ○アルファベット、数字、記号は、「半角」で入力してください。
 ○円号は、「H」を用いず、「平成」としてください。（当初計画及び変更後の計画欄を除く。）

<重要>
 枠の4ヶ月間が繰越事由に該当。それに要する期間のみ延長可能。（繰越事由が発生した期間の前後の月は、原則として計画の内容・期間の変更ができません。）
 (補足説明)欄では、繰越事由が生じた理由、期間延長の妥当性、計画の変更点について、明確な説明が必要です。繰越事由一覧や記入例、電子申請システムのテキストを参考に作成してください。

一致しているか確認。

原則、一致しているか確認。

+4ヶ月

完了時期と一致。

平成27年度継続課題については、平成26年度計画を平成27年度後半まで繰越して延期する場合、平成27年度の当初計画の補助事業が十分に遂行できるか検証してください。

繰越事由一覧を参照の上、「繰越事由(記号等)」を選択してください。

繰越を必要とする理由書

機関番号： 12345 研究機関名：××××大学 研究代表者名：学 振太郎
 課題番号： 26234567 平成26年度国庫債務負担行為分： 68,900,000 円 (内訳:直接経費 53,000,000 円・間接経費 15,900,000 円)
 繰越承認要求額： 10,400,000 円 (内訳:直接経費 8,000,000 円・間接経費 2,400,000 円)

研究種目： 特別推進研究 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

様式CK-26
作成・確認のポイント

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H26.4 事前準備	H26.4 事前準備	<p>※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。</p> <p>平成27年2月までに、 ○○○調査、フィールド調査を経て、△△解析を実施し</p> <p>平成27年3月までに、 研究成果を取りまとめる</p> <p>予定であった。</p>
H26.5 ○○○調査	H26.5 ○○○調査	
H26.6 ↓	H26.6 ↓	
H26.7 ↓	H26.7 ↓	
H26.8 フィールド調査	H26.8 フィールド調査	
H26.9 ↓	H26.9 ↓	
H26.10 △△解析	H26.10 △△解析準備	
H26.11 ↓	H26.11 ↓	
H26.12 ↓	H26.12 ↓	
H27.1 ↓	H27.1 △△解析	
H27.2 ↓	H27.2 ↓	
H27.3 研究成果取りまとめ	H27.3 ↓	
	H27.4 ↓	<p>事由</p> <p>記号等 ①キ 計画に関する諸条件 (研究協力者 (機関) の事情)</p> <p>(補足説明) 平成26年10月、▲▲を扱う専門的知識を有する研究協力者が所属研究機関の都合により、△△解析に参画できなくなった。同様の知識を持つ新たな人材を確保する必要が生じたが、確保までに3ヶ月の期間を要した。</p>
	H27.5 ↓	
	H27.6 研究成果取りまとめ	
	H27.7 ↓	
	H27.8 ↓	
	H27.9 ↓	
	H27.10 ↓	
	H27.11 ↓	
	H27.12 ↓	
	H28.1 ↓	
	H28.2 ↓	
	H28.3 ↓	

間接経費は、原則、直接経費の30%相当額ですが、全額執行済みや執行予定が決まっている場合は、30%相当額未満でも構いません。(※ 研究機関の事務担当者にご確認ください。)

<記入上の留意事項>
 ○ファイルの書式(行数、列数、幅等)、ファイルの形式は一切変更しないでください。
 ○フォントは「MS明朝」を使用してください。
 ○アルファベット、数字、記号は、「半角」で入力してください。
 ○元号は、「H」を用いず、「平成」としてください。(当初計画及び変更後の計画欄を除く。)

<重要>
 枠の3ヶ月間が繰越事由に該当。それに要する期間のみ延長可能。(繰越事由が発生した期間の前後の月は、原則として計画の内容・期間の変更ができません。)
 (補足説明)欄では、繰越事由が生じた理由、期間延長の妥当性、計画の変更点について、明確な説明が必要です。繰越事由一覧や記入例、電子申請システムのテキストを参考に作成してください。

左の<当初計画>に記入した内容・時期を記入。

翌年度計画と繰越承認要求額に大きな乖離はないか確認。

一致しているか確認。

原則、一致しているか確認。

＋3ヶ月

延長終了時期と一致。

平成27年度継続課題については、平成26年度計画を平成27年度後半まで繰越して延期する場合、平成27年度の当初計画の補助事業が十分に遂行できるか検証してください。

繰越事由一覧を参照の上、「繰越事由(記号等)」を選択してください。

様式C - 26

「繰越(翌債)を必要とする理由書」

記入例

※ 「特別推進研究」の繰越要件は他の研究種目と同一ですので、様式CK-26「繰越を必要とする理由書」に関しても、本資料をご参照ください。

事由: ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難
概念: 事前調査に想定以上の時間を要したものの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 15111 研究機関名: ××××大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】

研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度 ~ 29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 予備実験(条件設定) H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 △△法確立のための本実験 H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 実験結果の解析 H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 予備実験(条件設定) H26.8 ↓ H26.9 条件検討 H26.10 ↓ H26.11 予備実験(条件設定) H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 △△法確立のための本実験 H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 実験結果の解析 H27.6 ↓ H27.7 研究成果とりまとめ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年12月までに、 △△法確立のための本実験を実施し、 平成27年3月までに、 その結果の解析を行い、研究成果をとりまとめる 予定であった。
		事 由
		記号等 ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難
		(補足説明) 平成26年9月、△△法を確立するための予備実験の過程で、対象とする転写因子が特殊な性質を持つため、条件の設定が予想外に困難なことが判明した。その結果、条件検討を2ヶ月行った上、条件設定を再度行う必要が生じた。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年9月	平成27年7月末(4ヶ月延長)	

事由： ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難
 概念： 事前調査の結果、研究方式を見直す必要が生じたもの。

様式 C-26

繰越（翌債）を必要とする理由書

機関番号： 15111 研究機関名： ××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円（内訳：直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円）
 繰越（翌債）承認要求額： 2,600,000 円（内訳：直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円）
※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費（H26）： 円（内訳：直接経費 円・間接経費 円）】
 研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 条件設定（△△解析） H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 □□活性を示す抗体による本実験 H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 実験結果の解析 H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 条件設定（△△解析） H26.8 ↓ H26.9 研究方式の再検討 H26.10 ↓ H26.11 高純度な▲▲の調製 H26.12 ↓ H27.1 条件設定（△△解析） H27.2 ↓ H27.3 □□活性を示す抗体による本実験 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 実験結果の解析 H27.7 ↓ H27.8 研究成果とりまとめ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	（研究概要） ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年12月までに、条件設定のための△△解析を経て□□活性を示す抗体による本実験を実施し、平成27年3月までに、その結果の解析を行い、研究成果をとりまとめる予定であった。 事由 記号等 ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難 （補足説明） 平成26年9月、条件設定のために△△解析を行った結果、当初予定していたものより高い純度の▲▲を調製した上で、△△解析しなければ、目的とする□□活性を示す抗体の樹立ができないことが判明したため、5ヶ月の遅延が生じた。
繰越事由の発生した時期 平成26年9月	補助事業の完了時期 平成27年8月末（5ヶ月延長）	

事由： ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難
 概念： 実験等の結果、研究方式を見直す必要が生じ事前準備からやり直す必要が生じたもの。

様式 C-26

繰越（翌債）を必要とする理由書

機関番号： 15111 研究機関名： ××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円（内訳：直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円）
 繰越（翌債）承認要求額： 2,600,000 円（内訳：直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円）
※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費（H26）： 円（内訳：直接経費 円・間接経費 円）】
 研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 予備調査 H26.7 条件設定のため△△解析実施 H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 ○○発現解析の本実験 H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 実験結果の解析 H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 予備調査 H26.7 条件設定のため△△解析実施 H26.8 ↓ H26.9 事前準備 H26.10 予備調査 H26.11 ↓ H26.12 条件設定のため△△解析実施 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ○○発現解析の本実験 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 実験結果の解析 H27.7 ↓ H27.8 研究成果とりまとめ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	（研究概要） ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年12月までに、条件設定のための△△解析を経て、○○発現解析の本実験を実施し、平成27年3月までに、その結果の解析を行い、研究成果をとりまとめる予定であった。 事由 記号等 ⑦ア 研究に際しての事前調査の困難 （補足説明） 平成26年9月、条件設定のため△△解析を行っていたところ、発生の過程で▲▲ゲノムが失われていくという新たな知見の発見があった。研究遂行上この現象の本質を見極めることは不可欠であるため、再度事前準備・予備調査を行ったうえで解析をやり直す必要が生じた。
繰越事由の発生した時期 平成26年9月	補助事業の完了時期 平成27年8月末（5ヶ月延長）	

事由：⑦イ 研究方式の決定の困難
 概念：調査、実験等の研究過程で新たな知見を得たことにより研究方式を見直す必要が生じたもの。(新たな知見)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：16111 研究機関名：××××大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 プログラム内容の検討 H26.6 ↓ H26.7 △△形成実験1 H26.8 ↓ H26.9 ▲▲形成実験2 H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 実験結果の解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 プログラム内容の検討 H26.6 ↓ H26.7 △△形成実験1 H26.8 ▲▲酵素活性による新たな発見 H26.9 ▲▲酵素活性の調査・検証 H26.10 ↓ H26.11 プログラム内容の再検討 H26.12 △△形成実験1 H27.1 ↓ H27.2 △△形成実験2 H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 実験結果の解析 H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 研究成果とりまとめ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年11月までに、プログラム内容の検討を経て、△△に関する2つの形成実験を実施し、平成27年3月までに、実験結果の解析を行い、研究成果をとりまとめる予定であった。 事由 記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難 (補足説明) 平成26年8月、当初の予想に反し、△△形成に必要な▲▲酵素活性が□□□□の大きさを規定していることが明らかとなった。研究遂行上、この現象の本質を見極めることが不可欠であることから、有識者との議論を踏まえて研究方式を決定することとなった。
繰越事由の発生した時期 平成26年8月	補助事業の完了時期 平成27年8月末(5ヶ月延長)	

事由：⑦イ 研究方式の決定の困難
 概念：調査、実験等の研究過程で当初予想したものと異なる結果がでたことにより研究対象を広げたりするなど、研究方式を見直す必要が生じたもの。(不具合・不十分な結果、予期せぬ結果)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：16111 研究機関名：××××大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○〇システムの構築 H26.7 ↓ H26.8 △△実験 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 実験結果の解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○〇システムの構築 H26.7 ↓ H26.8 △△実験 H26.9 防振系の強化検討 H26.10 ↓ H26.11 雑音除去システムの設立 H26.12 △△実験 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ↓実験結果の解析 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 研究成果とりまとめ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年11月までに、○〇システムの構築を経て、△△実験を実施した後、平成27年3月までに、実験結果の解析を行い、研究成果をとりまとめる予定であった。 事由 記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難 (補足説明) 平成26年8月、地面振動による雑音が想定以上に△△実験の結果に影響することが発覚した。研究遂行上、この影響を排除する必要があることから、雑音防振系の強化の検討、雑音除去システムの設立に3ヶ月要した。
繰越事由の発生した時期 平成26年8月	補助事業の完了時期 平成27年6月末(3ヶ月延長)	

事由：⑦イ 研究方式の決定の困難
 概念：専門家からの指摘や他に参考とすべき資料の発見により研究方式の見直しが必要となったもの。(外部からの指摘・資料の発見)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：16111 研究機関名：××××大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000円 (内訳:直接経費 10,000,000円・間接経費 3,000,000円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000円 (内訳:直接経費 2,000,000円・間接経費 600,000円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ▲▲モデル化方法の検討・確定 H26.7 ↓ H26.8 ▲▲に関するモデル化テスト H26.9 ↓ H26.10 テスト結果の分析 H26.11 ↓ H26.12 研究倫理審査申請 H27.1 研究倫理審査承認 H27.2 データ収集 H27.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ▲▲モデル化方法の検討・確定 H26.7 ↓ H26.8 ▲▲に関するモデル化テスト H26.9 モデル化対象の検討、〇〇調査 H26.10 ↓ H26.11 ▲▲に関するモデル化テスト H26.12 ↓ H27.1 テスト結果の分析 H27.2 ↓ H27.3 研究倫理審査申請 H27.4 研究倫理審査承認 H27.5 データ収集 H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年11月までに、 ▲▲に関するモデル化テスト及びその結果の分析を行い、 平成27年3月までに、 研究倫理審査の承認を得てデータ収集を行う 予定であった。 事由 記号等 ⑦イ 研究方式の決定の困難 (補足説明) 平成26年9月、本研究と研究内容が近い△△における新しい▲▲に関する研究成果が、他の研究グループより発表された。本研究遂行上、この成果を検証した上で、当該成果を踏まえてモデル化の対象を追加し、〇〇調査を実施する必要が生じた。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年9月	平成27年6月末(3ヶ月延長)	

※平成25年度までは、研究代表者又は研究分担者が社会情勢の影響を考慮して、渡航を延期・中止した場合の事由を本事由として扱っていたが、平成26年度からは、「⑧相手国の事情」として扱う。
 ※調査実験等の結果として研究計画の変更が必要となった場合は、「⑦ア 研究に際しての事前調査の困難」もしくは「⑦イ 研究方式の決定の困難」として扱う。

事由：①エ 計画に関する諸条件(計画の変更)
 概念：事業実施の場所の変更や大幅な補強工事によるもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：11111 研究機関名：××××大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000円 (内訳:直接経費 10,000,000円・間接経費 3,000,000円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000円 (内訳:直接経費 2,000,000円・間接経費 600,000円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 △△実験テスト H26.8 ↓ H26.9 △△実験 H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 実験結果の解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果取りまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 △△実験のための実験室補強工事 H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 △△実験テスト H26.12 ↓ H27.1 △△実験 H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 実験結果の解析 H27.5 ↓ H27.6 ↓ H27.7 研究成果取りまとめ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年11月までに、 △△実験テストを経て△△実験を実施し、 平成27年3月までに、 その実験結果を解析し、研究成果をとりまとめる 予定であった。 事由 記号等 ①エ 計画に関する諸条件(計画の変更) (補足説明) 平成26年7月、実験装置の搬入を行うにあたり、当初の予測に反し、〇〇のため、実験室の地盤の強度が△△実験を行うためには不十分であることが判明したことから、補強工事を行う必要が生じた。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年7月	平成27年7月末(4ヶ月延長)	

※平成25年度までは、研究協力者や研究協力機関が社会情勢の影響を考慮して、研究協力の辞退や延期を申し出た場合の事由を本事由として扱っていたが、平成26年度からは、「⑧相手国の事情」として扱う。

事由： ①キ 計画に関する諸条件(研究協力者(機関)の事情)
概念： 研究協力者(実験等の被験者も含む)や研究協力機関の事情で研究協力者(実験の被験者も含む)や研究協力機関から協力を得られなくなったもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号： 21111 研究機関名：△△県立××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額： 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ○○○開花調査 H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 フィールド調査 H26.9 ↓ H26.10 △△解析 H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果取りまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ○○○開花調査 H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 フィールド調査 H26.9 ↓ H26.10 △△解析準備 H26.11 ↓ H26.12 △△解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 研究成果取りまとめ H27.6 H27.7 H27.8 H27.9 H27.10 H27.11 H27.12 H28.1 H28.2 H28.3	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成27年2月までに、 ○○○開花調査、フィールド調査を経て、△△解析を実施し、 平成27年3月までに、 研究成果を取りまとめる 予定であった。
繰越事由の発生した時期		事由
平成26年10月	補助事業の完了時期	記号等 ①キ 計画に関する諸条件(研究協力者(機関)の事情)
	平成27年5月末(2ヶ月延長)	(補足説明) 平成26年10月、▲▲を扱う専門的知識を有する研究協力者が急遽海外の機関に就職したため、△△解析に参画できなくなった。同様の知識を持つ新たな人材を確保する必要が生じたが、確保までに2ヶ月の期間を要した。

※平成25年度までは、研究協力者や研究協力機関が社会情勢の影響を考慮して、研究協力の辞退や延期を申し出た場合の事由を本事由として扱っていたが、平成26年度からは、「⑧相手国の事情」として扱う。

事由： ①キ 計画に関する諸条件(研究協力者(機関)の事情)
概念： 研究協力者(実験等の被験者も含む)が確保できないもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号： 21111 研究機関名：△△県立××××大学 研究代表者名： 科研 花子
 課題番号： 26123456 平成26年度補助金交付額： 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額： 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】： 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目： 基盤研究(A) 研究課題名： ○○に関する研究 研究期間 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ○○○解析テスト H26.6 ↓ H26.7 ○○国でのフィールド調査 H26.8 ↓ H26.9 △△国でのフィールド調査 H26.10 ↓ H26.11 調査結果の解析 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果取りまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ○○○解析テスト H26.6 ↓ H26.7 ○○国でのフィールド調査 H26.8 ↓ H26.9 現地協力者との日程調整 H26.10 ↓ H26.11 △△国でのフィールド調査 H26.12 ↓ H27.1 調査結果の解析 H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 研究成果とりまとめ H27.6 H27.7 H27.8 H27.9 H27.10 H27.11 H27.12 H28.1 H28.2 H28.3	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年10月までに、 ○○○解析テストを経て、○○国と△△国でフィールド調査を行い、 平成27年3月までに、 調査結果を解析の上、研究成果を取りまとめる 予定であった。
繰越事由の発生した時期		事由
平成26年9月	補助事業の完了時期	記号等 ①キ 計画に関する諸条件(研究協力者(機関)の事情)
	平成27年5月末(2ヶ月延長)	(補足説明) 平成26年9月、△△国でのフィールド調査において予定していた現地協力者の協力が急遽得られなくなった。本研究遂行上、当該協力者の参画は不可欠であるため、再度日程調整を行ったところ、11月に現地調査を延期して実施することになった。

事由: ①キ 計画に関する諸条件(学会等の事情)
 概念: 学会等の事情により、開催時期を変更・中止するもの、開催内容が変更となったもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 81111 研究機関名: △△△△機構 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 複合動詞についてのデータ整理 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 データの分析 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 シンポジウムで情報収集・研究成果とりまとめ	H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 複合動詞についてのデータ整理 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 データの分析 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 シンポジウムで情報収集・研究成果とりまとめ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	<p>※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。</p> <p>平成27年2月までに、 複合動詞についてのデータを整理し、その分析を行い、 平成27年3月までに、 シンポジウムでの情報収集及び研究成果とりまとめを行う 予定であった。</p>
繰越事由の発生した時期		事由
平成26年12月		記号等 ①キ 計画に関する諸条件(学会等の事情)
補助事業の完了時期		(補足説明)
平成27年6月末(3ヶ月延長)		平成26年12月、平成27年3月に開催予定だった△△国でのシンポジウムが、主催者である学会の都合により、平成27年6月に延期されることが判明した。当該シンポジウムにおいて最新の▲▲の情報を収集した上で研究成果を取りまとめる必要があるため、研究に遅延が生じた。

事由: ①キ 計画に関する諸条件(印刷社・出版社の事情)
 概念: 印刷社・出版社の事情により、印刷・出版時期を変更するもの。出版社の技量が不十分であることが判明したもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 91111 研究機関名: △△△△株式会社 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画>	<変更後の計画>	(研究概要)
H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○調査 H26.7 △△調査 H26.8 ↓ H26.9 □□評価 H26.10 データ解析 H26.11 論文投稿 H26.12 ↓ H27.1 論文修正 H27.2 ↓ H27.3 論文発表	H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○調査 H26.7 △△調査 H26.8 ↓ H26.9 □□評価 H26.10 データ解析 H26.11 論文投稿 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 論文修正 H27.5 ↓ H27.6 論文発表 H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	<p>※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。</p> <p>平成27年2月までに、 ○○調査と△△調査を行い、□□評価とデータ解析を経て、論文の投稿と修正を行い、 平成27年3月までに、 論文発表を行う 予定であった。</p>
繰越事由の発生した時期		事由
平成27年1月		記号等 ①キ 計画に関する諸条件(印刷社・出版社の事情)
補助事業の完了時期		(補足説明)
平成27年6月末(3ヶ月延長)		平成27年1月、投稿した論文審査の進捗について出版社に問い合わせたところ、編集者と査読者の都合により通常よりも審査が遅延しているとの連絡があった。それに伴い、当初予定より論文修正の開始が3ヶ月遅延することになった。

事由: ①キ 計画に関する諸条件(装置の開発遅延)
 概念: 当該研究において装置開発を行う場合のみ該当が生じうる。
 内的・外的要因を問わない。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 41111 研究機関名: ×××短期大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳:直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳:直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳:直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度 ~ 29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 △△製作・性能評価 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 △△望遠鏡搭載 H26.11 観測・データ解析開始 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 研究成果とりまとめ H27.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 △△製作・性能評価 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 △△性能再評価 H26.8 ↓ H26.9 □□試験実施 H26.10 ↓ H26.11 △△製作・性能評価(再開) H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 △△望遠鏡搭載 H27.3 観測・データ解析開始 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 研究成果とりまとめ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年10月までに、 △△の製作と性能評価を経て、望遠鏡に搭載し、 平成27年3月までに、 観測・データ解析を行い、研究成果をとりまとめる 予定であった。 事由 記号等 ①キ 計画に関する諸条件(装置の開発遅延) (補足説明) 平成26年7月、当初の予測に反し、 ◇◇の感度が○○測定を行うには 不十分であると判明したため、△ △性能の再評価を行う必要が生じ た。再評価の結果、□□試験も必 要となった。
繰越事由の発生した時期 平成26年7月	補助事業の完了時期 平成27年7月末(4ヶ月延長)	

事由: ①キ 計画に関する諸条件(機器の故障)
 概念: 実験等に使用する機器が故障した場合のみ該当が生じうる。機器の所有先は問わない。(装置の開発段階で不具合が生じた場合は「装置の開発遅延」。)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 51111 研究機関名: ○○○高等専門学校 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 4,290,000 円 (内訳:直接経費 3,300,000 円・間接経費 990,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 390,000 円 (内訳:直接経費 300,000 円・間接経費 90,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 7,150,000 円 (内訳:直接経費 5,500,000 円・間接経費 1,650,000 円)】
 研究種目: 基盤研究(B) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度 ~ 29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○内薬物送達評価のモデル構築 H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 △△実験 H26.10 ↓ H26.11 □□解析 H26.12 ↓ H27.1 研究成果とりまとめ H27.2 新しい実験系の事前準備 H27.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○内薬物送達評価のモデル構築 H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 △△実験 H26.10 ▲▲装置の修理・調整 H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 △△実験(再開) H27.2 □□解析 H27.3 ↓ H27.4 研究成果とりまとめ H27.5 新しい実験系の事前準備 H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年12月までに、 ○○内薬物送達評価のモデル構築を行った上で、△△実験及び □□解析を実施し、 平成27年3月までに、 研究成果のとりまとめを行い、新しい実験系の事前準備を開始 予定であった。 事由 記号等 ①キ 計画に関する諸条件(機器の故障) (補足説明) 平成26年10月、△△実験に使用し ていた▲▲装置に不測の故障が生 じたため、当装置の修理・調整が 必要となり、△△実験の再開まで に3ヶ月間を要した。
繰越事由の発生した時期 平成26年10月	補助事業の完了時期 平成27年6月末(3ヶ月延長)	

事由：①キ 計画に関する諸条件(怪我・病気)
 概念：研究代表者または研究分担者が突発的な怪我・病気を患ったもの。(研究協力者の場合は、「①キ 計画に関する諸条件(研究協力者(機関)の事情)」に区分。)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：12111 研究機関名：×××大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000円(内訳:直接経費 10,000,000円・間接経費 3,000,000円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000円(内訳:直接経費 2,000,000円・間接経費 600,000円)
 ※一部基金のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】：円(内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 第1次海外現地調査 H26.8 ↓ H26.9 第1次海外現地調査の取りまとめ、分析 H26.10 ↓ H26.11 第2次海外現地調査 H26.12 ↓ H27.1 第2次海外現地調査の取りまとめ、分析 H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ H27.4 ↓ H27.5 第2次海外現地調査の取りまとめ、分析 H27.6 ↓ H27.7 研究成果とりまとめ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 第1次海外現地調査 H26.8 ↓ H26.9 第1次海外現地調査の取りまとめ、分析 H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 日程調整 H27.2 ↓ H27.3 第2次海外現地調査 H27.4 ↓ H27.5 第2次海外現地調査の取りまとめ、分析 H27.6 ↓ H27.7 研究成果とりまとめ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成27年2月までに、2回の海外現地調査を実施し、その結果の取りまとめと分析を行い、平成27年3月までに、それらの結果を踏まえ、研究成果をまとめる予定であった。 事由 記号等 ①キ 計画に関する諸条件(怪我・病気) (補足説明) 平成26年10月、研究代表者の不測の病気により、航空機による長時間の渡航が困難となったため、11月の海外調査を延期する必要性が生じた。2月には、回復できる見込みであるため、日程調整の結果、平成27年3月に実施することになった。
繰越事由の発生した時期 平成26年10月	補助事業の完了時期 平成27年7月末(4ヶ月延長)	

事由：⑥オ 資材の入手難
 概念：業者からの納品の遅れなど外的要因の場合のみ該当が生じうる。(内的要因(事前準備や実験中にマウス等の作成が想定外にうまくいかなかったなど)の場合は、「⑦ア 研究に際しての事前調査の困難」、「⑦イ 研究方式の決定の困難」。)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号：13111 研究機関名：△△大学 研究代表者名：科研 花子
 課題番号：26123456 平成26年度補助金交付額：13,000,000円(内訳:直接経費 10,000,000円・間接経費 3,000,000円)
 繰越(翌債)承認要求額：2,600,000円(内訳:直接経費 2,000,000円・間接経費 600,000円)
 ※一部基金のみ記入【補助事業に要する経費(H26)】：円(内訳:直接経費 円・間接経費 円)
 研究種目：基盤研究(A) 研究課題名：〇〇に関する研究 研究期間：26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 △△マウスの交配 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 ↓ H26.8 △△マウスによる▲▲実験 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 実験結果の解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果とりまとめ H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 研究成果とりまとめ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 △△マウスの交配 H26.5 ↓ H26.6 ↓ H26.7 △△マウスの再交配 H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 △△マウスによる▲▲実験 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 実験結果の解析 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 研究成果とりまとめ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年11月までに、△△マウスによる▲▲実験を行い、平成27年3月までに、実験結果を解析し、研究成果をとりまとめる予定であった。 事由 記号等 ⑥オ 資材の入手難 (補足説明) 平成26年7月、提供元の研究所において、△△マウスの出産数が通常よりも少ない上、食殺による産仔喪失が重なり再度交配が必要となった。その結果、▲▲実験の開始が3ヶ月遅延することとなった。
繰越事由の発生した時期 平成26年7月	補助事業の完了時期 平成27年6月末(3ヶ月延長)	

事由: ⑧ 相手国の事情
 概念: 研究協力者や研究協力機関が社会情勢の影響を考慮して、研究協力の辞退や延期を申し出たもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 21111 研究機関名: △△県立××××大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳: 直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳: 直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳: 直接経費 円・間接経費 円)】

研究種目: 基礎研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○法確立のための有識者ヒアリング H26.7 ↓ H26.8 ○○法研究会開催 H26.9 現地調査 H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 調査結果の解析 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 研究成果取りまとめ	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 ○○法確立のための有識者ヒアリング H26.7 ↓ H26.8 ○○法研究会開催日程の再調整 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 ○○法研究会開催準備 H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 ○○法研究会開催 H27.6 現地調査 H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 調査結果の解析 H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 研究成果取りまとめ H28.1 H28.2 H28.3	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年8月までに、 ○○法確立のための有識者ヒアリングを経て、研究会を開催し、 平成27年3月までに、 現地調査を実施し、結果の解析を行い、研究成果を取りまとめる 予定であった。 事由 記号等 ⑧ 相手国の事情 (補足説明) 平成26年8月、我が国と△△国との政府間関係が悪化した影響を受け、△△人研究者からの申し出により、当該研究者を招聘しての研究会が延期になり、その研究会での議論を踏まえて行う予定だった現地調査も困難になった。そのため、日程の再調整を行い実施時期を延期する必要が生じた。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年8月	平成27年12月末(9ヶ月延長)	

事由: ⑧ 相手国の事情
 概念: 研究代表者又は研究分担者が社会情勢の影響を考慮して、渡航を延期・中止したもの。

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 11111 研究機関名: ××××大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳: 直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳: 直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
 ※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳: 直接経費 円・間接経費 円)】

研究種目: 基礎研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度～29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 ○○○手法の情報収集 H26.5 ↓ H26.6 事前準備 H26.7 ↓ H26.8 △△国での現地調査、海外協力者招聘 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 調査結果の解析 H26.12 ↓ H27.1 ○○○手法の研究会の開催 H27.2 ↓ H27.3 研究成果取りまとめ	<変更後の計画> H26.4 ○○○手法の情報収集 H26.5 ↓ H26.6 事前準備 H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 △△国での現地調査、海外協力者招聘 H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 調査結果の解析 H27.9 ↓ H27.10 ○○○手法の研究会の開催 H27.11 ↓ H27.12 研究成果取りまとめ H28.1 H28.2 H28.3	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年12月までに、 △△国での現地調査と海外協力者の招聘を経て、調査結果の解析を行い、 平成27年3月までに、 ○○○手法の研究会を開催し研究成果を取りまとめる 予定であった。 事由 記号等 ⑧ 相手国の事情 (補足説明) 平成26年8月、△△国でテロが発生するなど現地の治安が悪化し、現地調査ならびに海外協力者の招聘が困難となった。治安回復を見込み、平成27年6月に現地調査と海外協力者の招聘を実施し、平成27年10月に研究会を開催することにした。なお、政情が回復しない場合は▲△国にて代替調査を行う。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年8月	平成27年12月末(9ヶ月延長)	

事由: ③ア 気象の関係(豪雨)
 概念: 想定外の気象の関係によるもの。(単に、冬に雪が降る、梅雨の時期に雨天が続くなどにより実験が出来なかった場合は当初計画に問題があるのであって、繰越事由に該当しない。)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 17111 研究機関名: ○○○○大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳: 直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳: 直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳: 直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度 ~ 29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 △△国での調査打合せ H26.6 機材の調達と調整 H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 ▲▲調査と□□採取 H26.10 ↓ H26.11 ↓ H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 研究成果とりまとめ H27.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 △△国での調査打合せ H26.6 機材の調達と調整 H26.7 ↓ H26.8 ↓ H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 △△国での調査打合せ H26.12 機材の調達と調整 H27.1 ↓ H27.2 ↓ H27.3 ▲▲調査と□□採取 H27.4 ↓ H27.5 ↓ H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 研究成果とりまとめ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年8月までに、 △△国において、海外研究協力者と調査打合せを行った後に、 機材の調達と調整を行い、 平成27年3月までに、 ▲▲調査と□□採取を行い、研究成果の取りまとめを行う 予定であった。 事由 記号等 ③ア 気象の関係(豪雨) (補足説明) 平成26年9月、△△国で▲▲調査と□□採取を行う予定だったが、滞在期間中例年のない豪雨となり、実施できなかった。日程調整の結果、調査時期を平成27年3月に延期することとなった。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年9月	平成27年9月末(6ヶ月延長)	

事由: ③ウ 気象の関係(風浪)
 概念: 想定外の気象の関係によるもの。(単に、冬に雪が降る、梅雨の時期に雨天が続くなどにより実験が出来なかった場合は当初計画に問題があるのであって、繰越事由に該当しない。)

様式 C-26

繰越(翌債)を必要とする理由書

機関番号: 17111 研究機関名: ○○○○大学 研究代表者名: 科研 花子
 課題番号: 26123456 平成26年度補助金交付額: 13,000,000 円 (内訳: 直接経費 10,000,000 円・間接経費 3,000,000 円)
 繰越(翌債)承認要求額: 2,600,000 円 (内訳: 直接経費 2,000,000 円・間接経費 600,000 円)
※一部基金分のみ記入【補助事業に要する経費(H26): 円 (内訳: 直接経費 円・間接経費 円)】
 研究種目: 基盤研究(A) 研究課題名: ○○に関する研究 研究期間: 26年度 ~ 29年度

当初計画及び変更後の計画		当初の研究計画
<当初計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 機材の調達と調整 H26.7 ↓ H26.8 △△地域での観測調査 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 調査結果の解析 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 研究成果とりまとめ H27.3 ↓	<変更後の計画> H26.4 事前準備 H26.5 ↓ H26.6 機材の調達と調整 H26.7 ↓ H26.8 △△地域での調査時期再検討 H26.9 ↓ H26.10 ↓ H26.11 △△地域での観測調査 H26.12 ↓ H27.1 ↓ H27.2 調査結果の解析 H27.3 ↓ H27.4 ↓ H27.5 研究成果とりまとめ H27.6 ↓ H27.7 ↓ H27.8 ↓ H27.9 ↓ H27.10 ↓ H27.11 ↓ H27.12 ↓ H28.1 ↓ H28.2 ↓ H28.3 ↓	(研究概要) ※<当初計画>に即して、最終的に平成27年3月までに達成予定であった計画を時系列で記述すること。 平成26年10月までに、 機材の調達と調整の後に△△地域での観測調査を実施し、 平成27年3月までに、 その調査結果の解析を行い、研究成果のとりまとめを行う 予定であった。 事由 記号等 ③ウ 気象の関係(風浪) (補足説明) 平成26年8月、△△地域で観測調査を行う予定だったが、想定外の波浪の影響により、調査海域の安全性の確保が困難になったため調査時期を延期する必要が生じた。日程調整の結果、平成26年11月に実施することになった。
繰越事由の発生した時期	補助事業の完了時期	
平成26年8月	平成27年6月末(3ヶ月延長)	